



長野県立病院機構の令和5年度決算の状況がまとまりました

令和5年度決算は 11 億 7 千 6 百万円の純損失となりました

1 延べ患者数の状況

	令和5年度	令和4年度	比較増減 (対前年度比)	増減の主な要因
入院患者数	202,609 人	208,391 人	▲ 5,782 (97.2%)	コロナ対応病棟又は診療科受入休止による減少
外来患者数	388,351 人	402,397 人	▲ 14,046 (96.5%)	発熱外来・新型コロナ感染患者、ワクチン接種者等の減少

2 損益の状況

- 経常収益は、新型コロナウイルス感染症のための病床確保料の大幅な減少、外来患者数の減少などにより、前年度比11億3千6百万円減少し、248億7千1百万円となりました。
- 経常費用は、医師の働き方改革等による給与費の増加、高額医薬品の使用による材料費の増加、物価高騰による経費の増加等による影響で、前年度比 5 億 2 百万円増加し、260 億 3 千 6 百万円となりました。
- 経常損益は11億 6 千 5 百万円の損失となり、臨時損益を含めた純損益は11億 7 千 6 百万円の純損失となりました。

(税抜、単位：百万円)

科 目	令和5年度	令和4年度	増減(R5-R4)
経常収益(ア)	24,871	26,007	▲ 1,136
医業収益	17,605	17,657	▲ 52
うち入院収益	12,292	12,120	▲ 172
うち外来収益	4,678	4,919	▲ 241
うち公衆衛生活動収益	497	483	▲ 15
その他経常収益	7,266	8,350	▲ 1,084
うち病床確保料	590	1,617	▲ 1,027
経常費用(イ)	26,036	25,534	▲ 502
医業費用	24,027	23,560	▲ 468
うち給与費	13,709	13,554	▲ 155
うち材料費	4,367	4,187	▲ 180
うち減価償却費	2,148	2,121	▲ 27
うち経費	3,724	3,627	▲ 97
その他経常費用	2,009	1,975	▲ 34
経常損益(ア-イ)	▲ 1,165	473	▲ 1,638
臨時損益(ウ)	▲ 10	▲ 71	▲ 61
当期純損益(ア-イ+ウ)	▲ 1,176	402	▲ 1,577

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

3 各病院における経営改善の取組

患者の減少や人件費・物価高騰等、医療を取り巻く極めて厳しい状況を踏まえ、各病院では設備投資を厳選するとともに、以下のとおり、診療報酬の適切な算定等による収益の確保と業務の効率化等による費用の見直し・削減に取り組んでいます。

病 院 名	主 な 取 組
信州医療センター	入院期間の適正化、紹介率の向上、訪問看護ステーション開設、診療材料費削減
こころの医療センター駒ヶ根	救急・急性期病棟全室個室化、精神科地域包括ケア病棟入院料の算定
阿南病院	薬剤管理指導料算定数増加、生活習慣病管理料Ⅰの算定
木曾病院	訪問看護ステーション開設、地域包括医療病棟入院料算定、後発医薬品切替
こども病院	病棟再編による効率的なベッド運用、空きベッド利用促進、診療材料費削減

4 「機構未来プロジェクト」の始動

令和5年度の大幅な純損失に加え、患者の減少傾向下で病院の機能を維持していくことによる慢性的な赤字体質という構造的な弱みが明らかとなり、抜本的な経営改革が避けられない状況になっています。県立病院として地域に求められる役割を見極めたうえで、あり方を再構築するとともに、機構本部・各病院の全職員が一丸となって改善策に取り組むため、令和6年5月から「機構未来プロジェクト」を始動しているところです。今後この取組を着実に実施することにより、県民の皆様により安心で質の高い医療サービスを安定的に提供していきます。

